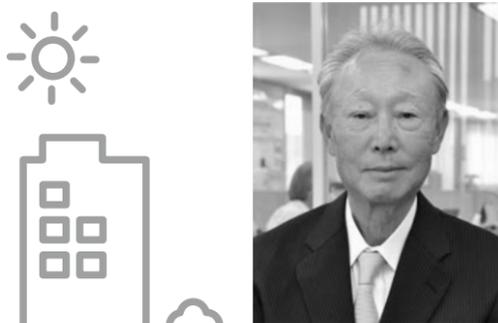


No.150 会社訪問

代表取締役社長 **松山 正一 氏**



聞き手：岡田康弘（事務局長）、取材・撮影・編集：クリエイティブ・レイ株式会社

**新日本物流株式会社**

会社プロフィール

代表者：代表取締役社長 松山 正一  
 本社：〒190-0012 東京都立川市曙町 2-37-7 コアシティ立川 12F  
 TEL：042-847-3080（代表） FAX：042-847-3079

支店営業所：大阪支店、営業所（東北・仙台・古河・赤坂、名古屋）  
 物流拠点：立川・国立・府中・八王子・青梅・相模原・川崎・品川・柏・成田・三郷・那須・仙台・登米・名古屋・大阪

設立：1979年11月  
 資本金：6700万円  
 従業員：550名（2021年3月現在）グループ連結：1000名

事業内容：一般輸送事業、重量物輸送・搬入、精密機器搬出入、倉庫・保管・荷役・梱包、産業廃棄物収集運搬、移転・引越、人材派遣、物流資材レンタル・販売、特殊搬入・搬出、建設業（電気・電気通信・とび土工・解体工事）、インフラ整備関連工事、保守メンテナンス

URL：<http://shinnippon-express.co.jp>



**専門スキルで「ワンストップサービス」の物流を構築  
 輸送前後の倉庫業務、工事、産廃処理まで一括対応**

御社の主な事業内容をお聞かせください。

弊社は物流、輸送業を中核に、物を運ぶ前後に必要な業務を一括して行うことが出来る、物流の総合サービスグループです。

組織は、新日本物流株式会社をオーナーとしてグループ会社を7社持ち、自社拠点・営業所・自社倉庫を東京各所、名古屋、大阪、宮城県の仙台市と登米市などに全国35拠点を展開しています。

従業員規模はグループ全体でおおよそ1000名を超え、所有トラックは700台です。

弊社がお運びする物は多岐にわたります。科学機器関連の取り扱い例ですと、精密機器、医療機器が大変多く、病院の検査で使われるMRI検査機器、CTスキャナ、X線装置、超音波診断装置などがその一例です。ものづくりの産業面では、自動車メーカーのエンジンなど、各種機械や部品などを日常的に取り扱っています。その他、小口輸送から重量物まで様々で、大きなものは10トンを超える物にも対応しています。

少し特殊な例では、航空事故で山中に墜落した飛行機の機体回収があり、運搬は墜落現場の樹木を伐採するところから行いました。また、JAXAから「はやぶさ」の

後継機にあたる探査衛星を搬出積込し、九州の発射基地まで輸送した例など、そうした公的団体の業務実績も多数ございます。さらに、東日本大震災以後、東北復興に関連する取り組みに積極的に参画し、放射線モニタリングポストの輸送設置を2700箇所に行いました。

このように広範な業務を請け負える弊社の強みが、物流の一連を窓口ひとつで承れる「ワンストップサービス」です。

ワンストップサービスについてお聞かせいただけますか。

輸送だけでなく、物を運ぶ前後に発生する倉庫保管、工事、設置、資材調達、保守管理、さらには産廃処理・リサイクルまで“最初から最後まで、すべてを請け負います”というものです。

例えば、新しいCTスキャナやMRI検査機器を病院へ納品する場合でも、お使いになれる形にするまでには、様々なことが必要です。工場からどうやって運搬車両に載せるのか、設置する検査室の入口が製品より狭い場合にどう運び込むのか、運び込んだ後に誰が必要な接続をして据付をするのか、それまでの古い機器はどう処分すればよいのかなどを一括で請け負うわけです。

それが可能なのは、会社としても社員個人としても、様々な認可や免許を取得しているからになります。その人材面に加え、輸送のための車輛、重機、専門的な大小の器具といった機材、精密機器を運ぶために自社で開発した専用梱包キットも数々取り揃えています。



MRI、CTスキャン、レントゲン、どの精密検査装置もかなり巨大ですね。どう運び込むのですか。

分解して運び込んだり、クレーンで吊って窓から入れたり、大規模になると搬入のために足場を組んだり、そのケースごとに様々な形があります。そして設置してご使用いただけるようにするわけですが、電気工事や建築関連の免許を持ったスタッフや、とび職も35人ほど在籍しているので、そうした設置への対応が可能なのです。

さらに廃棄物の処理資格も取得しているわけですね。

産業廃棄物収集運搬業の資格を持ち、さらに東京都に認可された産業廃棄物の中間処分場を自社で稼働しています。産業廃棄物の処理は法律のもとに、どのように適切に処理されたかを記す「マニフェスト」（産業廃棄物管理票）が必要ですが、弊社はマニフェストの発行も行うことが出来ます。中間処分場の認可に至るまでの東京都の審査は本当に厳しいものでした。

さらに補足すると、お客様から不要な物を引き取るのにスムーズなように、古物商の免許も取得しております。

御社の資料を拝見すると、免許・認可、さらに社員が所持の免許・資格の数に驚きます。重機操作関連はもちろん、危険物、解体工事、電気通信事業、冷媒回収など専門的な資格まで数々並び、まさに“最初から最後まで”担える体制なのですね。

弊社がバラバラな物流業務をまとめて一括で請け負うことで、金銭的、時間的なコストを大きく下げることが出来、お客様の手間も非常に軽減できます。

それまで輸送は運送会社、設置は電気の資格を持つ別の施工会社、そして廃棄物処理は資格を持つ別の会社となると、時間もコストもかさむうえ、仕事の範囲がどの会社の責任なのかという線引きも明確にし難く、ご発注担当の方は非常に苦労されている実情があります。

それを弊社が一括で承ることで、責任の所在も、そして指示・命令系統も明確になり、結果的に物流の「質」の向上にも繋がります。

産業廃棄物については、数年前から法律の改正で、エンドユーザーが直接廃棄の手配をすることが義務付けられました。そこまで対応できるのは大きな強みですね。

この点は、製造メーカーや販売店の方々からもお喜びの声をいただいております。メーカーや販売店としては、引き取りたくても法的にそれが出来ず、エンドユーザーに廃棄をお願いする他にはなかったわけです。そこにしかるべき免許を有している弊社がいることで、新製品をお届けすると同時に、古い製品は廃棄まで行えますので、メーカーと販売店側、エンドユーザー側、双方が助かるという形が作れます。

そして製造業やものづくり現場への部品搬入なども数多く手掛けておられますね。

はい。大手自動車メーカーの部品納入には毎日約50台の車輛が動いております。そうした製造業でも他の分野でも、物流で最も大事なものは「質」で、その質の根幹は「ジャストインタイム」です。必要な時に、必要な物を、必要な形できちんと届けられることが大事であり、弊社が何より大切に考えているところなんです。

そこには物流をサポートするスピード力、グループで700台を有する多種多様な車両を使った対応力、そして全国規模のネットワークがあるから実現出来るのです。

## 経営資料

御社の創業の経緯をお聞かせください。

1972年に倉庫内の梱包・輸送事業を個人で起業したのがはじまりです。その後、組織を整える期間などを経て、今の会社として整ったのが1979年になります。

創業の頃は、人のご縁から東芝の工場構内で、納品時の運搬などを請け負っていました。その工場で生産されていたのは電電公社の黒電話でした。そこには毎日13社ほどのサプライヤーの営業マンが別々に黒電話の部品を納入に来ていたのですが、私はそれを見て「別々に納品される部品を弊社が一括して運び込めば、より効率的ではないか」と考え、その旨を東芝さんにご提案、サプライヤー13社の部品を弊社が一括納入する「共同便」のアイデアを採用していただきました。

これにより、必要な部品を必要な時に必要な数、ジャストインタイムでラインに供給出来る形となったので、東芝さまに評価いただけましたし、サプライヤーの皆様も、毎日営業マンが納入していた

手間が減って、双方に有益なものとなったのです。



◀新日本物流(株)  
本社外観 コアシティ立川12階

生産効率を上げるアイデアだったわけですね。それ以後も、東芝さまとの取引は長いものとなったわけでしょうか。

はい。東芝工場で作られる製品は、黒電話からプッシュホンへ、さらに通信機、ファクシミリ、さらに世界的な大ヒットパソコンとなったDynabookと時代の変遷とともに変わっていきました。弊社としては、東芝さまとの取引が売上8～9割近くを占めていて、工場が海外に移転するまで、続けて大変お世話になりました。

その後、国内工場の海外移転で、弊社はピンチの局面を向かえました。

しかし、その時から社員が必死になって、幅広く新規開拓してくれたお陰で今日があります。

国立の物流センター▶



これまで経営者として喜びを感じられたことは、どのようなことですか。

お客様へ色々な改善提案をさせていただく中で、採用いただいた時が、非常に嬉しく感じました。東芝さまとの密な取引が始まったのも共同便の提案がきっかけでしたが、その後も、様々な形で改善提案をしてみました。

ファクシミリの前身であった大型機器の輸送の時は、それまでの木箱から強度を増したスチール枠組みの箱を自社で開発し、提案させていただきました。この梱包箱は非常に評価いただき、東芝本社役員の皆様の前で説明させていただいたことは、強く心に残っています。会社ですので利益を出すことは大事ですが、採用いただく喜びの方が、私には何倍も大きいことです。

そしてもう1つ喜びを感じてきたことは、社員に対してです。現在は1000人規模の従業員となっていますが、その中には初期の頃から在籍し、大変な時も一緒に乗り越えて、今も力になってくれている社員がたくさんいます。もちろんベテランだけでなく、若い社員、女性社員も良い仕事をしてくれていて、感謝と喜びを感じる事が多くあります。

反対に経営者として困難を感じたことはございますか。

最も苦しかったのは、一番のお得意様であった東芝さまの事業変革に伴い、弊社としてもいろいろな改革に取り組まねばならなかった時期です。

それまでは、90%近い売り上を締めていた、いわば一社に“依存”していた運営であったわけですが、気付いた時には本当にゆゆしき問題でした。もうその頃には、弊社も規模が大きくなっていましたので、社員の雇用をどう守ろうかと不安でいっぱいでした。

しかし、そのような変革期に、東芝さまの要求品質に応えながらも社員の営業活動で、新たに色々な仕事を開拓することが出来、結果的に危機を乗り越えて、企業としても大きく成長することが出来ました。

この危機の局面で、輸送の前工程や後工程で必要になる業務の為に取得していた多くの資格や免許が、力を発揮できたこともありました。単純に輸送する仕事だけでなく、幅広い仕事を開拓出来たわけです。

このピンチを期に、会社でも社員個人でも、より一層のライセンスや資格を取得して幅広い仕事につなげるようになり、徐々に功を奏してきたのかなと思っています。

まさにピンチをチャンスに変えたわけですね。

御社の企業理念をお聞かせください。

「品質・挨拶・協調」という3原則を掲げています。この3原則だけは絶対に心に留めておこうと、原理原則として社員全員に徹底しています。

(1)品質は、お客様の大切な製品を運ぶという仕事において最優先です。(2)挨拶というのはコミュニケーションをしっかりとうということ。(3)協調もその延長にあり、色々な業務を行っている性格上、非常に大切です。

社外のお客様に対してももちろんですが、例えば重量物の輸送では、社員同士の協調性がしっかりしていなければ、大事故につながりかねないものです。そうしたことを含め、あまり難しいことよりも、このシンプルな3原則を大切にすることを徹底しています。

実は、弊社の強みは交通事故がとて少ないので、保険会社さんに大変に安い保険料を適用いただいています。これは全国で他には例がないそうです。社員が安全に働けていること、また安全輸送は物流の品質そのものでありますので、これからも継続していかなければいけないと思っています。

今後の課題や事業展開についてお聞かせください。

精密機器、医療機器、メディカル、通信など、いわゆる高精度の製品に特化した倉庫を作る計画を内々に進めています。緒についたばかりの計画ですが、このために昨年、日野市に2500坪の土地を購入しました。

精密機器は年々高度化し、価格も非常に高額なものとなっています。そうした機器に最適な環境の中で安全に保管するために、温度、湿度、耐震性その他、あらゆる面を管理した倉庫を備えようというものです。

この倉庫が実現することで、一括して、効率よく、そして高品質で物流が出来るということになります。科学機器関連企業の皆さまにも、更にお役に立てるものと思っています。

松山社長の個人的なことも伺わせてください。

敬愛する人物や愛読書などはございますか。

日本の作家、海外の作家問わず、これまでに歴史を扱った本をたくさん読んできました。「罪と罰」「戦争と平和」「アンナ・カレーニナ」など、ロシア文学にも感銘を受

けました。20年近く前にロシアに旅行したのですが、その直前に読んだ「アンナ・カレーニナ」に、夜11時頃に舞踏会に出席する描写があるのですが、実際、そんな遅くにパーティをやっているものだろうか…とっていました。

しかし現地に着くと白夜で、そういうことだったのか…と腑に落ちたものです。特に大ファンの作家がいるわけではないのですが、歴史や歴史を記した小説は素晴らしいなと思います。

休日に楽しんでいる趣味などはございますか。

今は健康づくりを兼ねてゴルフを楽しんでいます。たくさん歩くためにゴルフに行くという感じですが、実は大変好きで頻繁に行っております。

当協会にはゴルフ部会もありますので、ぜひご参加ください。最後に、当協会へのご意見やご要望をお聞かせいただけますか。

入会したばかりであり、意見や要望などはめっそもございませんが、会員企業さまが色々な面で苦慮されていると思われる物流面の改善提案で協力出来ていければと思っています。

製造メーカーや販売企業の方々には、社内に物流のシステムがあることは非常に稀でご苦労されている姿を目にしてきました。そこをコスト面、手間、そして一番は大切な製品の品質を守って輸送することなど、多々ご提案が出来るのではないかと考えています。そのひとつとして、今後計画している、精密機械など高度製品に特化した倉庫を早々に実現して、皆さまに有益となるご提案が出来ればと思っています。



松山社長(中央)と本社総務・経理の事務スタッフ